

令和2年度 学校関係者評価 愛南町立内海中学校

〔評価基準 A－目標値の80%以上達成 B－目標値の70%以上達成 C－目標値の60%以上達成 D－目標値の59%以下〕 【アンケート結果 4－そう思う 3－ややそう思う 2－あまり思わない 1－思わない】 黄緑色の枠…昨年度後期よりUP 黄色の枠…昨年度後期よりDOWN

項目	○中期の目標	評価指標【成果指標・取組指標】及び目標値	期間	評価	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	平均値	アンケート結果(%)			
								4	3	2	1
1	○主体的に学ぶ授業づくり	生徒に思考力・判断力・表現力等の向上を目指し、確かな学力の向上を図ることができたか。(わかる授業の推進) 目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	B	◇テストの成績等の得点から考えても、まだ不十分で課題も多いと考える。 新型コロナ関連で授業進度に影響があり、7時間授業や補習で対応したが時間的に十分とは言い切れない。 ◆授業改善を図りながら、学習習慣の定着等も含め、総合的な指導を続けていきたい。	教職員アンケート	3.0	0%	100%	0%	0%
						生徒アンケート	2.9	12%	69%	19%	0%
						保護者アンケート	2.8	20%	48%	24%	8%
	○基礎基本の定着	生徒は基礎基本が定着したか。 目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	C	◇学習トライアルの成果は出ているが、長期間の定着につながっていない。 ◆授業や宿題等で、繰り返し学習できるような工夫をする。	教職員アンケート	2.4	0%	43%	57%	0%
						教職員アンケート	2.8	0%	75%	25%	0%
	○言語活動の充実	言語活動の充実と教育内容の確実な実施に努めることができたか。目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	B	◇授業の中で、個に応じた目標設定や学び方を支援している。またNIE教育の中での育成を図っている。 ◆子どもの実際の学習状況を把握し、思考を促すための「問い返し」や「切り返し」を行う。個の疑問を子ども同士、教師対生徒など教室全体で共有するための言語活動になるよう工夫したい。	教職員アンケート	2.1	0%	14%	86%	0%
						生徒アンケート	2.2	8%	15%	65%	12%
保護者アンケート						2.4	4%	44%	40%	12%	
○家庭学習の充実	家庭学習の習慣化に努めることができたか。 目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	D	◇自主学习ノートの取組は、学年や個人のばらつきが大きかった。習慣も定着しているとはまだまだ言い難い。 ◆今後も共通認識のもと、全校体制で、諦めることなく地道に指導を続けていきたい。また、家庭とのタイアップを図りたい。家庭の協力をあおぐ手立ても考えたい。	教職員アンケート	2.3	8%	38%	35%	19%	
					生徒アンケート	2.4	0%	52%	32%	16%	
○キャリア教育の充実	夢や希望をもちそれに向けて努力できているか。 目標値:生徒・保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	C	◇将来の自分について想像させたり考えさせたりする活動がなかなか取れていないという実情があった。 ◆キャリアパスポートの取り組み、職場体験学習、学級活動等をうまく組み合わせ学校外の情報を生徒に伝えていきたい。コロナが収束すれば、卒業生や様々な職業に携わっている人を講師に招き、講話や座談会等の活動も有効なので推し進めたい。	生徒アンケート	2.3	8%	38%	35%	19%	
					保護者アンケート	2.4	0%	52%	32%	16%	
					教職員アンケート	3.0	0%	100%	0%	0%	
○読書活動の習慣化	読書の習慣化に努めることができたか。 目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	C	◇生徒の読書に関するアンケート結果を見ると、60%以上は「読書が好き」と答えており、90%は集中して朝読書に取り組んでいる。貸出状況を見ても、読書に対する気持ちが増してきているように感じる。しかし、アンケートの数値にはそれが現れていない。受け取り方の個人差や、家庭での過ごし方の中に読書が入る余地がないことが関係していると思われる。 ◆家庭での読書啓発として親子読書を薦め、保護者の見守りの中で読書に親しませていきたい。また引き続き、SNSの利用状況と読書量との関連についても見ていきたい。アンケートの質問文には検討が必要。	教職員アンケート	2.3	23%	19%	27%	31%	
					生徒アンケート	2.2	20%	16%	32%	32%	
					保護者アンケート	2.2	20%	16%	32%	32%	
学校運営協議会委員の所見	SNSの使い過ぎが家庭での学習時間の確保の妨げになっていると思われる。学校と家庭とのタイアップが不可欠。ただし、親としても頭を悩ましていところ。読書についても同様に連携すべきである。	学校の対応	家庭での学習時間について、テスト期間中だけの把握にとどまらないようにする。家庭との連携の手立てを検討したい。冬休みにはSNSのきまりを親子で考えるプリントを配布した。今後も機会を捉え、事あるごとに取り組んでいきたい。今年実施できなかったスマホ教室も行事の中に組み込んでいく。								
2	○心に響く道徳の授業づくり	道徳的判断力を高め、豊かな心情及び道徳的実践力の育成に努めることができたか。目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	B	◇道徳の授業では、様々な目線で物事を考えようとしたり、問題解決しようとする姿は見られる。しかし、普段の学校生活からそれらのことが生かされているとは言い難い状態である。 ◆校内研修等を通して、全ての教育的活動の中で道徳的判断力・実践力を育むことができるように意識を統一し、全教職員で道徳教育に取り組むたい。	教職員アンケート	2.8	0%	83%	17%	0%
						教職員アンケート	2.4	0%	43%	57%	0%
	○地域の素材や人材の活用	地域の素材や人材を活用した教育活動が推進できているか。 目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	C	◇コロナ禍で講師として人を招くなどの活動が実施できにくかった。 ◆海学習、地域学習では例年通りの活動ができた。来年度もできる活動から、地域人材の活用を図りたい。	教職員アンケート	2.5	0%	63%	25%	13%
						生徒アンケート	2.9	19%	50%	31%	0%
						保護者アンケート	2.9	12%	72%	12%	4%
	○あいさつの展開	生徒会を中心として、地域全体で取り組むあいさつ運動を展開することができたか。 目標値:教職員、保護者、生徒の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	B	◇あいさつ運動の見直しで、年度末に強調週間を設けて呼び掛けた。新生徒会でも、気持ちのよいあいさつを目指して活動する予定である。 ◆気持ちのよいあいさつができる生徒とそうでない生徒がいる。また、よりよいあいさつができていないと自覚している生徒の割合が増えたので、給食時の放送を活用しながら、生徒自身が「あいさつ」を振り返り、評価・改善できるよう工夫する。	教職員アンケート	2.5	0%	50%	50%	0%
						教職員アンケート	2.8	25%	25%	50%	0%
○インクルーシブ教育の推進	特別支援教育コーディネーターを中心とした校内推進体制の強化、充実を図ることができたか。目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	C	◇授業における個別のよりよい支援の方法については校内研修会で学ぶ機会を持った。 ◆進路実現に向けてどのような支援が必要なのか、情報を共有できるよう意識して取り組む。	教職員アンケート	3.0	13%	75%	13%	0%	
					教職員アンケート	3.0	17%	67%	17%	0%	
○人権を尊重する心の育成・いじめ防止	「学校いじめ防止対策基本方針」の周知と具現化に努め、いじめは許さないという強い気持ちを育てることができたか。目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	B	◇職朝で、生徒の様子を職員で確認し、早期発見早期対応に努めている。また、記録も細かくとっているため、保護者来校時にも、情報を伝えることができています。 ◆評価の基準が教職員からのアンケートのみであるので、実施方法の検討も必要である。また、今年度の事例から、生徒の様子を振り返ると、SNSの使い方等に今後も継続的な指導が必要である。また、「いじめ」という言葉が独り歩きした事例もあった。いじめである、ないに関わらず、困っている生徒には周囲や教師がともに寄り添っていくことを大切にしていきたい。	教職員アンケート	3.0	42%	46%	12%	0%	
					生徒アンケート	3.3	42%	46%	12%	0%	
					保護者アンケート	3.2	38%	46%	17%	0%	
・人権を尊重する心の育成	全教育活動の中で人権尊重の精神を養い、「差別しない」「差別に負けない」「差別を許さない」生徒を育成することに努めることができたか。目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	B	◇人権集会や人権・同和教育懇談会を行い、生徒たちが人権について意識できる取り組みを行うことができた。しかし、あと一歩目標値には達していない。 ◆人権強調月間を設けて学習課題に取り組むことができたが、今後も継続して、各教科や各領域など様々な角度から、人権・同和教育を推進する。	教職員アンケート	3.0	17%	67%	17%	0%	
					教職員アンケート	3.0	17%	67%	17%	0%	
・人権・同和教育の視点に立った学級経営	相手の立場を理解し、互いを思いやる暖かい人間関係を構築することができたか。 目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	B	◇教職員、保護者ともに2と答えた割合が増加したが、全体的に4と答えた割合も増加した。互いを思いやることができていると感じている生徒もいるが、うまく気持ちを伝えられない生徒もいるように思う。 ◆学校生活の中の様々な行事や日々の活動を通して、生徒同士や学級内で温かい人間関係を構築できるよう支援していく。また気になる生徒については機会を捉えて話を聴くことができるように心掛ける。	教職員アンケート	3.0	17%	67%	17%	0%	
					生徒アンケート	3.3	42%	46%	12%	0%	
					保護者アンケート	3.2	38%	46%	17%	0%	
学校運営協議会委員の所見	内中生は地域でも気持ちの良いあいさつができている。少ない人数で人間関係の難しさはあると思うが、いじめのない学校を目指ししっかり取り組んでほしい。	学校の対応	今後も生徒の様子をしっかり把握し、全教職員で支援する体制を継続していく。本校生徒全員が楽しい学校生活を送れるよう、困っている生徒にしっかり寄り添っていきたい。あいさつについてはまだまだ頑張れると考えている。生徒会を中心に活発な活動を展開させていく。								

項目	○中期の目標	評価指標【成果指標・取組指標】及び目標値	期間	評定	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	平均値	アンケート結果(%)			
								4	3	2	1
3 たくましい心身を育てる教育の推進	○部活動の活性化	挑む心を育むたくましき(意力・体力)の強化に努めることができたか。 目標値:教職員、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	A	◇コロナ禍で活動に制限があった1年だったが、生徒は目標を失わず活動することができた。多くの保護者からも温かい協力を得られたこともプラスの要因である。ただし、保護者、生徒の中に部活動に対する様々な価値観や温度差があることも事実である。 ◆校区のスポ少の活動に衰退が見られ運動をせざる入学してくる生徒も多くなるので、しっかりと受け止めて指導をできる体制をとっていきたい。また、地域や小学校の保護者へ部活動の様子をきちんと周知したい。	教職員アンケート	3.3	50%	33%	17%	0%
						保護者アンケート	3.2	36%	48%	12%	4%
	○生徒指導の徹底 ・いじめ・不登校の根絶	一人一人の理解に努め、問題の早期発見、早期対応を図ることができたか。目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	A	◇長欠生徒はいない状況が続いている。学級担任を始めとして教職員の細やかな対応・連携ができていていると考える。 ◆ほとんどの生徒が現在の集団よりも大きな集団に所属することになる。少人数での学校生活の利点は当然あるが、けじめのある言動等の課題もある。中学卒業後も前向きな生活を送ることができるよう指導していききたい。	教職員アンケート	3.4	38%	63%	0%	0%
	・学校生活の充実	学校生活を楽しく送ることができているか。 目標値:生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	B	◇生徒たちは、概ね楽しく学校生活を送っている。しかしながら友達関係の悩みやトラブルを抱えている生徒がいるということを忘れてはならない。 ◆今後も生徒たちが充実した学校生活を送れるよう、教育相談や日々のあゆみ指導、声掛けを通して生徒理解に努める。教師の情報交換を密にし、共通理解を図る。	生徒アンケート	3.2	42%	31%	27%	0%
						保護者アンケート	2.9	21%	58%	13%	8%
	○命を守る教育の徹底	「自分の命は自分で守る」という意識を高め、危機意識や安全確保のために具体的実践力を育てることができたか。 目標値:教職員、生徒の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	A	◇生徒の評価は高いが、教室や廊下などの過ごし方を見ると危険な場面が見られる。 ◆避難訓練や防災教育に関連付け、具体的な例を挙げながら指導を継続していく。また、教職員の意識統一が重要である。	教職員アンケート	3.3	25%	75%	0%	0%
						生徒アンケート	3.5	48%	52%	0%	0%
	○健康教育の推進	家庭と連携し、早寝、早起き、朝ご飯の習慣を定着させることができたか。 目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	B	◇日々の調査だけでなく、委員会活動の一環としても調査し、継続指導をしたが、生活習慣の中で一番守れていないのが就寝時刻である。生徒よりも保護者の評価がよくなっているのは、個室で把握できていないことも考えられる。朝食は、摂取できている生徒が多いが量や質には問題がある。自己管理能力が育成できていない。 ◆睡眠時間、朝食ともに保護者との連携が重要である。就寝時刻については、スマホ・ゲーム等の使用状況とも関連があるので生徒指導と協力しながら進めていく必要がある。朝食については、保護者の意識が変容しないと難しいので、食育に関する講話を実践する。	教職員アンケート	2.9	0%	88%	13%	0%
						生徒アンケート早寝、早起き、朝ご飯	2.9	23%	50%	23%	4%
						保護者アンケート早寝、早起き、朝ご飯	2.5	8%	48%	32%	12%
	家庭と連携し、歯磨き、手洗いの習慣を定着させることができたか。 目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	教職員アンケート				2.9	0%	88%	13%	0%	
					生徒アンケート歯磨き手洗い	3.2	35%	54%	8%	4%	
					保護者アンケート歯磨き手洗い	2.9	24%	48%	20%	8%	
○防災・減災教育の推進	東日本大震災から学ぶ、生きる防災・減災教育の推進を図ることができたか。 目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	A	◇避難訓練に取り組む生徒の意識は高い。家庭科や理科等の教科指導の中や学活でもしっかり指導することができた。また、今年度「海学習」時における海上での避難訓練もできたので良かった。 ◆避難訓練の意味を今後もしっかり生徒に確認させたい。避難訓練の回数についてはショート訓練などももう少し定期的に実施する方向で計画したい。予告なしの避難訓練の実施や、登校中・部活動中などの様々なケースを想定した避難訓練を今後も積極的に取り入れたい。	教職員アンケート	3.0	0%	100%	0%	0%	
					生徒アンケート	3.7	69%	31%	0%	0%	
					保護者アンケート	2.9	4%	79%	17%	0%	
学校運営協議会委員の所見	選択肢のない中で部活動をそれぞれが頑張っている姿がよい。部活動の検討も今後必要になるのでは。早寝・早起き・朝ごはんについては家庭の問題だが、しっかりと連携して取り組んでほしい。			学校の対応	早寝・早起き・朝ごはんについて、毎日のデータ収集によりしっかり把握できている。今後はそれを生かす手立てを検討し、家庭に協力を依頼する。学校保健委員会等の話を親子で聞く場を設定する。目標に向かって全員が頑張れるような部活動運営を心掛け、充実感や感動を味わえる場としたい。						
4 特色ある学校づくり	○環境教育の推進 「海学習」の充実・深化	「海学習」の充実・深化を図りながら、家庭・地域と連携した環境教育を推進することができたか。 目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	A	◇生徒の多くは意欲的に海学習に臨んでいる。保護者や地域の協力もありがたいし、地域、保護者に理解されている活動なのでこれまでの取り組みを継続していくことが大切。 ◆環境学習とも関連付けられるとよいが、時数確保については課題が残る。また、教員の負担についても考える必要がある。見守り船の担当を快く引き受けていただけるのに甘えて特定の人材にほとんど頼っている。計画時で適切な振り分けが必要である。	教職員アンケート	3.5	50%	50%	0%	0%
					生徒アンケート	3.7	73%	23%	4%	0%	
						保護者アンケート	3.5	54%	46%	0%	0%
	○ボランティア活動の推進	地域の一員としてのボランティア活動の推進を図ることができたか。 目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	B	◇生徒・保護者の評価が向上した。2学期の運動会や文化祭、参観日など学校行事に向けて校内美化活動に力を入れた成果であると考えられる。 ◆例年のように生徒会活動の一環としてボランティア活動を確保できなかった。3学期には、生徒会活動の中でボランティア活動をする機会を設けている。また、教職員の評価と生徒・保護者の評価値に開きがある。ボランティアを「地域に出かけての自発的ボランティア」として教職員は捉えており、生徒・保護者へのアンケート文面についても検討したい。	教職員アンケート	2.0	13%	0%	63%	25%
						生徒アンケート	3.4	46%	50%	0%	4%
						保護者アンケート	3.3	38%	58%	0%	4%
	○ONIE教育の推進	組織の一員としてNIE教育の推進を図ることができたか。 目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.3以上)でA	年度末	B	◇全体としては、研修組織の各部会の活動の中で、NIEの取組が軌道に乗ってきた。少しずつではあるが、生徒の世の中の出来事に対する興味・関心も高まってきた。 ◆校内研修の中で、見直しとチェックを繰り返しながら、活動の改善を図りながら進めていきたい。保護者への周知を更に進める手立てを考えたい。	教職員アンケート	3.3	25%	75%	0%	0%
					生徒アンケート	3.0	23%	54%	19%	4%	
					保護者アンケート	2.5	4%	44%	48%	4%	
学校運営協議会委員の所見	海学習の取組はすばらしい。今後もしっかり継続してほしい。ボランティア活動については須ノ川海岸等の清掃活動が定期的に行われている。中学生の参加についてもお願いしたい。			学校の対応	ボランティアに関する意識は高いので、地域との連携を図り活動の場を広げたいと考える。海学習においては現状の高評価に甘えることなく、環境問題の幅を広げるなどして更なる発展を目指したい。						

項目	○中期の目標	評価指標【成果指標・取組指標】及び目標値	期間	評定	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	平均値	アンケート結果 (%)				
								4	3	2	1	
5 教職員の 資質の 向上	○校内研修の充実	教育活動や校内研修を充実させ、教育専門職としての資質と指導力向上に努めることができたか。目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	B	◇各校務分掌別に研修の機会を確保することができた。しかし、コロナ禍の影響もあり、授業研究は計画通り進めることができなかった。 ◆来年度に向けて、もう一度研究計画をしっかりと見直し有効に時間を捻出し、研究が計画的に進められるように努力したい。	教職員アンケート	2.8	0%	75%	25%	0%	
	○教師としての人間性と専門性の向上	各種研修に参加し専門職としての資質と力量を高めるために自己研鑽することができたか。目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	B	◇新型コロナの関係で、多くの研修会が中止になり、研修の機会の確保は不十分であった。 ◆今後は、リモートやICTを活用した研修にも積極的に取り組んでいく必要がある。	教職員アンケート	2.9	0%	88%	13%	0%	
	○教職員の信用保持	服務規律の遵守し、信用保持に努めることができたか。目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	A	◇全教職員が服務規律を遵守し、信用保持に努めることができた。 ◆今後も自分自身に少しの甘えを許さず、違反行為や信用失墜行為のないよう、引き続き努力したい。	教職員アンケート	3.6	63%	38%	0%	0%	
	学校運営協議会委員の所見	リモートなどを利用した会議や研修の現状はどうなっているのか。それらを活用することでしっかりと研修を進めてもらいたい。先生の服務について、気になることはない。(教職員だけということはないが)今後も法規をきちんと守るようしてもらいたい。			学校の対応	コロナ禍を言い訳にせず、ICT機器の活用を図り、今後も真摯に研修等に取り組んで行きたい。研究授業の実践を全教職員が実施できるように指導したい。ことある事に服務規律の遵守を指導していく。特に、交通安全の励行に努めさせたい。						
6 家庭・ 地域との 連携	開かれた特色ある学校づくり ○家庭や地域との連携の強化	学校の取組みに対する情報発信と情報受信に努めることができたか。目標値:教職員、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	A	◇各種便りやホームページ、まちcomiメールで積極的に発信し、学校の取組や生徒の様子を逐次知らせることができた。 ◆引き続き、内容の充実を図り、保護者や地域に情報発信を続けていきたい。	教職員アンケート	3.5	50%	50%	0%	0%	
	学校運営協議会委員の所見	コロナ禍で地域との行事がなくなったのは寂しいが仕方ない。今後とも可能な限り機会を設けてほしい。学校行事等で常に案内をいただいていた。ただ、なかなかすべてに参加できていないので申し訳ない。毎月の学校だよりやHP等で学校の様子がわかるのはありがたい。			学校の対応	引き続き、定期的な便りの発行を続けたい。また、毎日のHPの更新を目標にしたい。合同運動会、文化まつり、句会ライブ、トレッキング・ザ・空海など、今年度は地域と関わる様々な行事がコロナ禍で中止となった。来年度は、感染防止対策を万全にした中で、可能な限り開催できる方法を検討したい。地域に中学校の様子をもっと伝えるために公民館の回覧板や公民館報の利用を積極的に図りたい。	保護者アンケート	3.2	36%	56%	4%	4%
	学校運営協議会委員の所見	少ない人数の中、子どもたちは頑張っている。今後もしっかりと育ててほしい。スマートフォン等の端末の使い方は、基本的には親と子どもの問題だと思う。子どもがSNSに依存し過ぎる現状があり、端末があっても当たり前、もってない”変”という風潮の中、親としてどうかかわっていくのか難しい。			学校の対応	学校目標である「生徒が育つ学校」の実現を目指し、地域の中で活躍できる生徒の育成のために尽くしたいと思う。SNSの問題は学校としても、学力向上の面、健全な心身の育成の面にとっても大きな課題である。家庭との連携が不可欠であり、PTA活動の中に「より良い使い方を考える活動」を効果的に組み込みたい。また、学級活動はもちろん、全校体制でスマホ教室等を計画し、意識の向上を図りたい。						